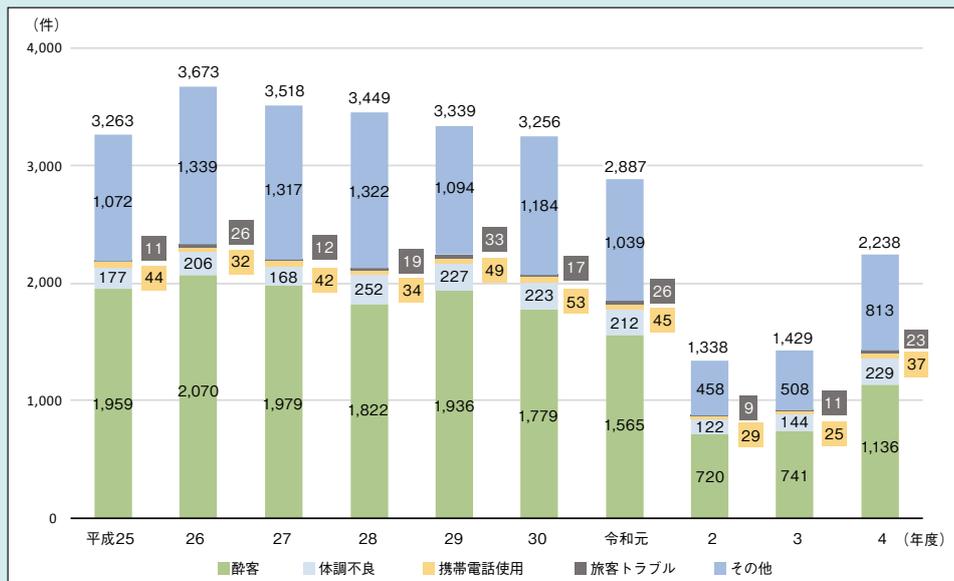


# プラットホーム事故0（ゼロ）運動について

## プラットホーム事故の現況

令和4年度におけるホームからの転落件数は2,238件で、このうち約50%が酔客となっている。



ホームからの転落の要因別件数の推移（鉄軌道輸送の安全に関わる情報（令和4年度）より）

## プラットホームにおける安全対策の推進

国土交通省では、プラットホームにおける安全対策として、非常押ボタン、転落検知マット、プラットホームからの転落を防ぐためのホームドア等の整備を促進している。また、鉄道利用者に対して、プラットホーム上での列車との接触などを注意喚起するほか、危険を感じたときには非常押ボタンを押してもらうことを目的に、首都圏の鉄道事業者が一体となって、共通ポスターの掲出や駅・車内での注意喚起放送などを行う「プラットホーム事故0（ゼロ）運動」を実施している。

### <プラットホーム事故0（ゼロ）運動>

#### 【実施事業者】

小田急電鉄、京王電鉄、京浜急行電鉄、京成電鉄、東日本旅客鉄道、新京成電鉄、西武鉄道、相模鉄道、東急電鉄、東京地下鉄、東武鉄道、東京都交通局、横浜市交通局、伊豆箱根鉄道、江ノ島電鉄、関東鉄道、埼玉高速鉄道、芝山鉄道、多摩都市モノレール、首都圏新都市鉄道、東京モノレール、東葉高速鉄道、埼玉新都市交通、箱根登山鉄道、北総鉄道、横浜高速鉄道、流鉄、東京臨海高速鉄道

#### 【協賛】

関東鉄道協会



プラットホーム事故0（ゼロ）運動ポスター（令和5年度）